

武庫庄



令和8年3月25日

「あ～なんて素敵な日だ」

窓から差し込む光が、少しずつ春の色を帯びてきました。

3月19日。6年生がこの学び舎を巣立っていきました。その退場の瞬間に、体育館に響き渡ったメロディーは、Mrs. GREEN APPLEの「僕のこと」です。心温まる手拍子の中、胸を張って一歩ずつ踏み出していく6年生の姿は、本当にまぶしく、誇らしいものでした。

そして本日3月25日、修了式を迎え、在校生の皆さんも令和7年度的全課程を無事に修了します。

卒業式の退場曲として選んだ「僕のこと」の中に、こんな印象的なフレーズがあります。

「あ～なんて素敵な日だ」

この言葉は、決して「何事もなく幸せだった日」だけを指すものではありません。この歌詞の前後には、「奇跡は死んでいる」「努力も孤独も報われないことがある」という、現実の厳しさを突きつけるような言葉が並んでいます。

学校生活も、きっと同じだったはずです。あんなに練習したのに負けてしまった試合、勇気を出して話しかけたけれど分かり合えなかった放課後、自分の弱さに気づいて立ち止まってしまったあの日……。思い通りにいかない現実につつかり、涙がこぼれそうになった瞬間が、誰にでもあったのではないのでしょうか。一見すると、それは「素敵」とは真逆の、苦しい出来事に見えるかもしれません。けれど、悩み、葛藤し、それでも「次はどうしようか」と少しずつ前を向こうとしたその瞬間にこそ、人間としての本当の美しさが宿ると私は思います。

うまくいった日も、ボロボロに泣いた日も、そのすべてがあったからこそ、今、ここに「かけがえのないあなた」がいます。

「楽しい」も「苦しい」も、全部ひっくるめて一生懸命に生きてきた一日は、他の誰にも代えられない、世界に一つだけの「なんて素敵な日」なのです。

4月からは、いよいよ学年が一つ上がります。卒業生が残していった「自分を信じる力」というバトンを、今度は皆さんが受け取り、この学校の新しい物語を作っていく番です。

どうか、今の自分をそのまま好きでいてください。たとえ今は自分のことが未完成に思えても、この一年間で皆さんが歩んできた足跡は、すべて「奇跡」へと続く大切な一歩です。

自分の歩んできた道に自信を持って、新しい学年の扉を叩いてください。

保護者の皆様。この一年、お子様の小さな変化に一喜一憂し、時には一緒に悩みながら、一番の味方でいてくださったことに心より感謝申し上げます。皆様と手を取り合い、子どもたちの成長を見守ることができたこの一年間は、私たち教職員にとっても大きな喜びでした。一年間、本校の教育活動への多大なるご理解とご協力をいただき、本当にありがとうございました。4月、一回り大きくなった皆さんの元気な笑顔に出会えるのを、先生たちは楽しみに待っています。